

2019 なつやすみおすすめ本

1・2ねんせい

おがわちやういつとしよかん
小川町立図書館



『タケノコごはん』7Eタ

おおしま なぎさ ぶん いとう ひでお え ポプラ社
大島 渚/文 伊藤 秀男/絵

パパが小学校にいったころ、日本は戦争をしていました。さかいくんのお父さんが戦死し、担任の先生も戦争で死んでしまいました。そして、かわりにきた先生も戦争に行くことに…。みなさん、戦争ときいてどんなことが思い浮かびますか？自分が、もしこの時代に生きていたらと想像してみてください。この本をよんでどんなことを感じるでしょうか。

『ねこの町の本屋さん』913コ

こてまり るい/作 くま あやこ/絵 講談社
小手鞠 るい/作 くま あやこ/絵

クララさんは、本が大すき。ねこの町に子どものための本屋さんをオープンしたクララさん。けれどお客さんは…。ある日、犬の村の「ゆうやけ図書館」で子どもたちが本に夢中になっているという噂を聞いて、様子を見に行ってみると素晴らしいものを見つけました。

『みさき食堂へようこそ』913コ

こうさか なお さく きたざわ へいすけ え 講談社
香坂 直/作 北沢 平祐/絵



みさきのさきっちょにある「みさき食堂」は、ちょっとふしぎな食堂です。ふしぎなおきゃくさんがやってくるからです。食堂のしゅじんのハルさんと、そのまごむすめのだまみちゃん、おきゃくさんの食べたかたものをつくるのです。さて、どんなおきゃくさんがやってくるのでしょうか。

『ぼくはアイスクリーム博士』4Eボ

ピーター・シス/さく たなか あきこ/やく 西村書店
ピーター・シス/さく たなか あきこ/やく

アイスクリームがだいすきなジョーは、さいこうの夏休みをすごしています。たのしことがいっぱいあるからです。でも、ちゃんとべんきょうもしています。アイスクリームとむすびつけば、知らないことばをおぼえるのも、さんすうのもんだいをとくのもかんたんです。絵の中にはたくさんのアイスがかかれています。さがしてみてね。

『すずめのおくりもの』913ア

あわ なおこ さく きくち きょうこ え 講談社
安房 直子/さく 菊池 恭子/絵

とてもはたらきやものおとうふやさんのところに、あるあさたくさんのすずめがやってきて、小さいおとうふいっちょうつくってくださいといひます。すずめのかわいいおんがえしまでよんだときには、すっかりおとうふのつくりかたもわかるようになっています。

『耳かきのすきな王さま』913オ

おその え けいこ さく あべ はじめ え 講談社
小園江 圭子/作 阿部 肇/絵

いくら人の耳をかくのがすきといっても、穴が開いてしまうとは！王様、ちょっとやりすぎかもしれませんね。聞いたことを片っ端から忘れてしまうことを、『右の耳から左の耳』とたとえることができます。家来たちは命令をなんでもすぐに忘れてしまうので、王さまのまわりは大騒動！ハブニングの連発です。

『わにのはいた』933ド

マーガリット・ドリアン/ぶんとえ 光吉 夏弥/やく 大日本図書
マーガリット・ドリアン/ぶんとえ 光吉 夏弥/やく

わにの アリは、はが いたくなってしまいました。はいしゃさんに いくことになりましたが、まちがったバスにのってしまいます。アリは はいしゃさんに いかなくてすんで「こりゃ ありがたいぞ。しめ、しめ！」と よろこびましたが、はいたは どんどんひどくなってしまいます。アリは どうなっちゃうんでしょう？